白石の農×育てる人

～農家の輝く姿を情報発信！～

２カ月に１回、白石のすてきな農家さんを紹介していきます！　私たちの身近にある「農業」の情報を楽しくお届けします。

今回は、冬に旬な果物「リンゴ」を栽培している若手農家の木須さんと、冬にもかかわらず夏野菜の「ミニトマト」を栽培している小野さんに話を聞きました。

㊐農林課　☎22-1253

甘くておいしいリンゴを育てたい！

木須果樹園
木須（きす）　悠友（ゆうすけ）さん

悠友さんは、果樹栽培では１年かけて「１回ずつ」しか経験できない農作業だからこそ、常に先を見越してベストを尽くせるよう心掛けています。最初の農作業である「リンゴの樹の剪定（せんてい）」は、１年後にイメージ通りのリンゴが実るよう計画を練りながら取り組んでいます。

悠友さんの強みは、物事への「探究心」と「行動力」。国内外の情報が多く集まる都内の農業大学へ進学し、数々の実験を行い、果物の完熟度や適切な収穫時期の見極め方など品質に関わる知識を習得しました。

家族が営む果樹園へ就農して８年目。実践で培ってきた知識と経験を基に「毎年、甘くておいしいリンゴを育てられる農業を目指したい」と目を輝かせていました。

▲リンゴを食べて笑顔になるお客さんを想像しながら、収穫しています

情報を武器に新しい農業スタイルに挑戦中！

30歳のころに脱サラし、未経験で就農した信弥さんは、ビニールハウスでミニトマトを栽培しています。ミニトマトは、１年を通して販売されていることに注目し、需要があり競争率が低い「越冬栽培」に挑戦しました。多くの問題を乗り越え「越冬栽培」は見事に成功し、現在も順調に生産量を伸ばしています。

▲ミニトマトの成長を感じながら、収穫に向け形を整えています

信弥さんの武器は「情報」。農作業では「効率化」を強く意識し、全国の成功事例などを情報収集して実践しています。また、作業記録をつけることで自身の活動を「可視化」させ、改善点を見つけやすくしています。事前にインターネットなどで野菜の品目ごとの売れ筋を確認するなど、情報を活用した新しい農業に挑戦中の信弥さんに注目です。

やまねふぁーむ
小野（おの）　信弥（しんや）さん

学校キラリニュース

白石市学力向上プロジェクトの取り組み

小原小中学校（小原学園）　非認知能力育成プロジェクト～地域協働的な学習活動を通して～

小原学園では、学校教育目標の達成に向けた特色のある教育活動を「６つのプロジェクト」と銘を打って展開しています。そのうちの１つ「非認知能力育成プロジェクト」では、自治的・自立的活動を推進しています。さまざまな学習活動において自ら企画・運営に取り組み、自己効力感を高めることをねらいとしています。10月に開催された地域の行事である「秋の検断屋敷まつり」では、和太鼓の演奏、司会や実行委員の補助など、運営側の一員として参加し地域の方々から温かな称賛をいただくとともに大きな達成感を得ることができました。

また、社会福祉協議会小原支部主催の「独居高齢者お楽しみ弁当宅配事業」においても小学４年生の児童が全校児童・生徒で作成したメッセージカードを添えたお弁当を配布してとても喜ばれました。

地域協働的な学習を通じ、小原地区や白石市の一員としての自覚を高めながら「シビックプライド“まちへの誇りと愛着”」を育んでいきます。

▲開会式で司会を務める児童

▲検断屋敷まつりで披露した太鼓演奏

▲メッセージカードとお弁当を手渡す児童

㊐学校管理課　☎22-1342

福岡中学校　ともにつくろう白石の未来～White Will（しろい志）～

福岡中学校では、福岡小学校・深谷小学校・白石工業高校・角田支援学校白石校と５校で連携し、異校種間で「かかわる」「もとめる」「はたす」の視点で生徒の地域への思いや自己効力感を育む志教育に取り組んでいます。

今年は白石のよさをＰＲするフォトコラージュ制作や折り染め体験、高校との部活動交流、小学校の学習発表会での吹奏楽部演奏など、さまざまな交流を行いました。自分たちで作ったもの（披露したもの）が地域や施設の方々から感謝される喜び、さまざまな人たちと関わりながら１つのものを創り上げる喜びが自己効力感の高まりにつながっています。３年ぶりに開催された「しろいし蔵王高原マラソン大会」では、地元の行事を盛り上げようと本校から多くのランナーやボランティアが主体的に参加するなど取り組みの成果が表れてきています。この自己効力感の高まりが「夢や志を持つこと」を醸成し、生徒個々の学習意欲の向上につながるよう今後も取り組みを継続していきます。

▲小学生の保護者の前で発表する生徒

▲折り染めにも挑戦！

▲休日にも関わらず生徒が積極的に参加